

# I 調査概要

## 1. 調査目的

本市では、平成25年3月に「支えあうまち・京都 ほほえみプラン」（京都市障害者施策推進計画 計画期間：平成25年度～29年度）を策定し、障害保健福祉施策の総合的な推進に取り組んでいる。

今般、同計画の次期計画策定及び将来に向けた障害保健福祉施策のあり方を検討するための基礎資料とするため、障害のある市民の状況やニーズについて調査する「障害者生活状況調査」を実施した。

## 2. 概要

### 1. 調査期間

- ・ 基準日  
平成28年11月1日
- ・ 調査実施期間  
平成28年11月2日から11月30日まで

### 2. 調査対象と回収結果

#### 調査対象

調査種別	調査対象	調査対象数	有効回収数	有効回収率
A 身体障害者	*1	1,000	540	54.0%
B 身体障害児		800	442	55.3%
C 知的障害者		1,000	495	49.5%
D 知的障害児		800	408	51.0%
E 精神障害入院患者		340	114	33.5%
F 精神障害専門職		340	195	57.4%
G 精神障害通院患者		680	101	14.9%
H 精神障害者家族		870	63	7.2%
I 発達障害者		340	115	33.8%
J 高次脳機能障害者		110	50	45.5%
K 難病患者		150	58	38.7%

\*1 A～D：市内に住所を有し、身体障害者手帳又は療育手帳の交付を受けている方の中から無作為抽出

E：市内に住所を有し、精神障害全疾患に該当し、市内及び隣接地域の精神科病床に入院している方で精神障害者保健福祉手帳の取得者又は同手帳1～3級程度に該当する方

F：Eの対象者をよく知る医療従業者

G：市内に住所を有し、精神障害全疾患に該当し、市内及び隣接地域の精神科・神経科を標榜する医療機関において通院医療を受けている方で精神障害者保健福祉手帳の取得者

H：E Gの家族

I～K：障害者団体の会員等

## 調査方法

A～D：対象者個人に郵送により調査票を送付，回収

E～H：調査への協力を得られる入・通院先の病院等へ調査票を送付。郵送による回収又は同病院等で対象者から回収

I～K：障害者団体の協力のもと，障害者団体の会員に郵送等により調査票を配布，回収いずれの調査票とも無記名とする。

## 3. 調査内容

調査項目は，以下のとおりである。

### (1) 身体障害者調査<A調査>

- ・ 基本的事項/障害の種類・程度・内容/生活の状況/障害福祉等に関するサービスの利用状況/外出の状況/就労(仕事)・収入の状況/健康・医療などの状況/社会参加の状況/災害時の対応/福祉施策への要望など/障害者差別解消法の認知/「支えあうまち・京都ほほえみプラン」の進捗状況

### (2) 身体障害児調査<B調査>

- ・ 基本的事項/障害の種類・程度・内容/生活の状況/障害福祉等に関するサービスの利用状況/外出の状況/教育の状況/健康・医療などの状況/災害時の対応/福祉施策への要望など/障害者差別解消法の認知/「支えあうまち・京都ほほえみプラン」の進捗状況

### (3) 知的障害者調査<C調査>

- ・ 基本的事項/障害の種類・程度・内容/生活の状況/障害福祉等に関するサービスの利用状況/外出の状況/就労(仕事)・収入の状況/健康・医療などの状況/社会参加の状況/災害時の対応/福祉施策への要望など/障害者差別解消法の認知/「支えあうまち・京都ほほえみプラン」の進捗状況/家族調査

### (4) 知的障害児調査<D調査>

- ・ 基本的事項/障害の種類・程度・内容/生活の状況/障害福祉等に関するサービスの利用状況/外出の状況/教育の状況/健康・医療などの状況/災害時の対応/福祉施策への要望など/障害者差別解消法の認知/「支えあうまち・京都ほほえみプラン」の進捗状況

### (5) 精神障害入院患者調査<E調査>

- ・ 基本的事項・障害の種類・程度・内容/生活の状況/就労(仕事)・収入の状況/福祉施策への要望など/障害者差別解消法の認知/「支えあうまち・京都ほほえみプラン」の進捗状況

### (6) 精神障害入院患者専門職調査<F調査>

- ・ 入院の状況/障害者差別解消法の認知

### (7) 精神障害通院患者<G調査>

- ・ 基本的事項/障害の種類・程度・内容/生活の状況/障害福祉等に関するサービスの利用状況/外出の状況/就労(仕事)・収入の状況/健康・医療などの状況/社会参加の状況/災害時の対応/福祉施策への要望など/障害者差別解消法の認知/「支えあうまち・京都ほほえみプラン」の進捗状況

### (8) 精神障害家族調査<H調査>

- ・ 基本的事項/生活の状況/仕事や活動の状況/障害者差別解消法の認知/「支えあうまち・京都ほほえみプラン」の進捗状況

### (9) 発達障害者調査<I調査>

- ・ 基本的事項/障害の種類・程度・内容/生活の状況/障害福祉等に関するサービスの利用状況/外出の状況/就労(仕事)・収入の状況/教育の状況/健康・医療などの状況/社会参加の状況/災害時の対応/福祉施策への要望など/障害者差別解消法の認知/「支えあうまち・京都ほほえみプラン」の進捗状況/家族調査

(10) 高次脳機能障害者調査<J調査>

- ・ 基本的事項/障害の種類・程度・内容/生活の状況/障害福祉等に関するサービスの利用状況/外出の状況/就労(仕事)・収入の状況/教育の状況/健康・医療などの状況/社会参加の状況/災害時の対応/福祉施策への要望など/障害者差別解消法の認知/「支えあうまち・京都ほほえみプラン」の進捗状況

(11) 難病患者調査<K調査>

- ・ 基本的事項/難病の内容, 障害者手帳の有無/生活の状況/障害福祉等に関するサービス等の利用状況/外出の状況/就労(仕事)・収入の状況/教育の状況/健康・医療などの状況/社会参加の状況/災害時の対応/福祉施策への要望など/障害者差別解消法の認知/「支えあうまち・京都ほほえみプラン」の進捗状況

#### 4. 集計と分析

調査結果の分析及び報告書については、龍谷大学短期大学部教授 加藤博史氏（精神分野）、関西大学社会学部教授 加納恵子氏（身体分野）、京都知的障害者福祉施設協議会会長 樋口幸雄氏（知的分野）の協力を得た。また、調査結果の集計については、株式会社サーベイリサーチセンターの協力を得た。

### 3. 本書のみかた

1. 集計表は標本数（n）を100とした比率（%）で小数点以下第1位まで表示した。なお、端数処理（四捨五入）の関係で合計が100.0%にならない場合があるが、表記上の処理で100.0%と記載した。また「複数回答」の場合は合計が100.0%を超えるが、これも端数処理（四捨五入）の関係で、合計欄の値と各選択肢の数値を単純に積み上げた場合の数値とが異なる場合がある。この場合も、表記上の処理で合計欄は実数計算による値を示している。
2. 設問の回答肢などの表記については、表記が長くなるため略文で示している場合がある。